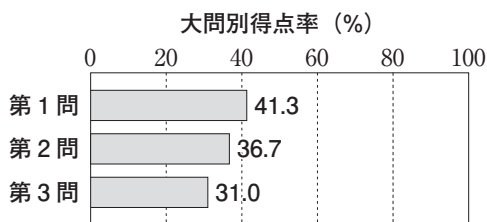
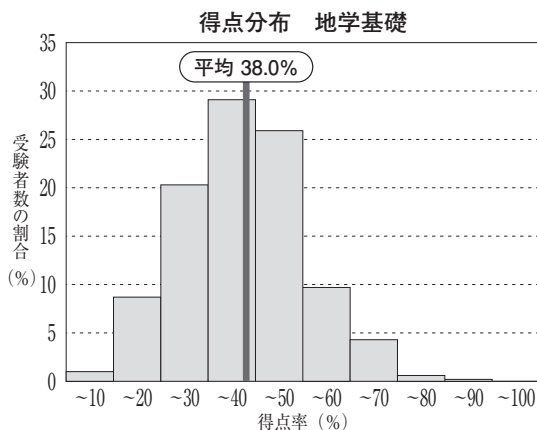


地学基礎

教科書の内容の完全理解を目指そう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は19.0点であった。2月時点で一通りの学習を終えている受験者も多かったと思われるが、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者は少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 地球

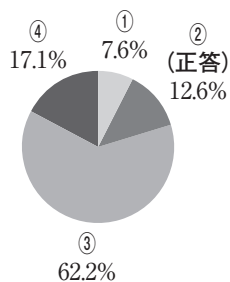
地球の内部構造に関する知識を整理しよう。

Aでは地球の内部構造と東北日本における地震の特徴についての基礎的理解を確認した。地球の内部構造については、2018年のセンター試験でも出題されている。日本列島付近で起こる地震についてもまとめておこう。

Bでは断層と地層・地史についての理解を確認した。地質断面図の読み取り問題はセンター試験では頻出である。類題を解いて慣れておこう。

Cでは火成岩と造岩鉱物についての基礎的理解を、Dでは変成岩の組織と成因についての基礎的理解を確認した。火成岩と変成岩の特徴についてまとめておこう。火成岩の構成鉱物に関する問題は、2015年～2018年のセンター試験でも出題されている。よく復習しておこう。

問3 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、
選択率の合計は100%にならないことがある。
以下同様。

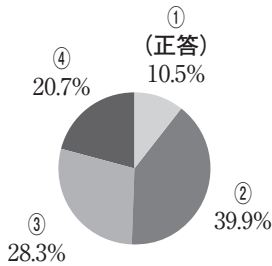
第2問 地球の水

仕組みを理解して考えよう。

地球上の水の循環と気象、合わせて氷期についての総合的理解を確認した。大気と海洋は密接に関係している。水の循環と大気の大循環を合わせて具体的にイメージできるようにしておこう。地学基礎でも計算問題が出題されるが、決して複雑なものでは

ない。落ち着いて取り組もう。

問2 10 各選択肢の選択率

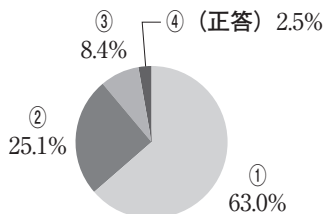


第3問 太陽系

太陽系の天体と形成について理解しよう。

太陽系の天体と形成についての総合的理解を確認した。問1については計算の筋道を確実に理解しておこう。太陽系の形成については2018年のセンター試験で、太陽系の天体については2016年のセンター試験で出題されている。太陽および太陽系の天体について、しっかり復習しておこう。

問2 14 各選択肢の選択率



Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく、学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし、センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し、教科書を徹底理解することが大切である。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学基礎は暗記科目ではないということである。

「地学基礎」の学習ではまず教科書を通読しよう。教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。大事なことは、各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされ、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。描くことで、見るだけではわからなかったポイントが見えてくるはずだ。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。

◆模試を活用しよう。

「地学基礎」にはセンター試験の過去問が少なく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるとてもよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。